

転生したいなあと思っ
てたら本当にできた

ふる・2

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

転生させてほしいと願い続けた大学生遠坂誠

願いが届き神様に転生させてもらうことになる

そんな彼の新たな人生の物語

目次

HUNTER×HUNTER編

第1話	1
第2話	5
原作開始	12
第4話	17
第5話	22
第6話	27
キルアから見たマコト	33
ハリーポッター編	
第8話	39
第9話	45
第10話	50

第11話	55
第12話	59
第13話	64
第14話	68
進撃の巨人編	
第15話	75
第16話	79
第17話	83
第18話	87
第19話	92
第20話	96
第21話	101
第22話	108

第23話

僕のヒーローアカデミア編

第24話

第25話

第26話

第27話

115

121

125

131

138

HUNTER×HUNTER編

第1話

俺の名前は遠坂誠

ついさつき交通事故にあった

ちよつとコンビニに行つて、さあ帰ろうというところに

綺麗にトラックの不意打ちを食らったどこかに打ち付けられる前に意識が飛んでよ
かった

現在神様と思わしき存在と対面中だ

これは今流行のアレの始まりだろう

神様「うむ、おぬしの感情を読み取るに状況は把握しているようじゃな」

やっぱり本物の神様は輝き方から違うわ

めつちや輝いてるのに目に優しい

誠「はい！これから転生に関する説明を受けるつてことですね」

本当の偉い人っていうか自分より上位の存在となると自然と敬意を抱くようになる

もんなんだな

神様「うむおぬしが毎日毎日神様神様と連呼しながら祈るさまがなんともうつとおしくてのお、まあ特に悪人というわけでもなく、日々精一杯生きとるようだったし転生させてやろうと思うたのじゃ」

おお、願ひ届いちやったよ！やっぱ神様すげえ、死角なしって感じか

神様「そうじゃろ、なんたって神様じゃからな」

誠「そういえば心読めるんですもんね、喋る喋らない関係ない感じか」

神様「うむ、敬語など使わずとも、敬意は心を読むことによつて感じ取れるから問題ないのお」

若干嬉しそうだ

誠「なるほど流石ですね。そういえば時間は大丈夫ですか？」

神様「時を操るなど容易い、心配無用じゃ。ではそろそろ

無駄話も飽きてきたから本題に入ろうかの」

待ってました！

神様「まずは転生先の世界を決める、ただしこれは二次元の世界に限る。元いた世界や他の三次元世界を選ぶと特典がなくなるゆえこれらは除外じゃ」

なるほどこれは考えるまでもないな

神様「次は特典じゃがこれは転生先の世界における危険の大きさと獲得可能な特典の

数が比例するようになっておる。また特典の数と特典の強弱は反比例する」

なるほど面白い

これはよく考えないと

神様「まあ時間は無限じゃ、よく考えて決めるのじゃな」

よし今まで読んだ漫画アニメ二次小説の知識を総動員するぞ！

：

誠「決めました！転生先はHUNTER×HUNTERの世界

特典は①完全学習②メモリ制限の撤廃③成長限界撤廃で

よろしくお

願いします！」

神様「うむ、うまい選び方をしたな、では達者でな」

：

自分の意識というか自我が芽生えたのは2歳の誕生日だった。

転生したのはジャポンに住むハンター一家で、父のハヤトと母のエリカは遺跡ハンターで、ジャポン古来の物を研究しているらしい。

名前は前世と同じくマコトだ。両親ともに美形だったので自分の容姿にも期待が高

まる、これは神様のサービスだろうか？だとしたらマジリスペクト、神様アザっす！

まずはなんといっても精孔を開くところから始めなければならぬ。これには得点
が関係してくる

特典①の完全学習は瞬間記憶能力と他者の技術の模倣能力
を合わせたものである。

ゆえに両親の纏をはじめとしたオーラ操作技術を模倣するためにはオーラを視認で
きなければ始まらないのである。

特典②は尚更である

ゴンやキルアほどの才能はないにしてもポックルくらいはあつてほしい

第2話

3歳になった

結局精孔を開くのに一年近くもかかった

現時点の才能はポツクル以下と判明した

ひたすら精神集中したり反射神経や運動神経の発達を促すための適度な運動をした
りする日々を送っていた。

そんな中でふと思ったのは

特典①②が強大で③が成長限界突破である関係からか

初期能力が低めになっているかもしれないということだ

まあ成長限界がないのだから問題ないだろう

先程精孔を開いたことを感知したのか母がやってきた

驚愕している

マコト「お母さんこのモヤモヤ何？だんだん力抜けてく感じがするんだけど？」

エリカ「マコト！とりあえずモヤモヤをお母さんみたいに体にまとって！」

完全学習が発動しすぐに纏は出来た

エリカ「そんなにあっさり纏ができるなんて…」

まづい早すぎたか？

エリカ「天才よ！うちの子天才だわ！あ、ハヤトにも知らさなくっちゃ!!」

そういうと母は部屋から飛び出していった

マコト「親バカで助かった。この分なら大抵のことはうちの子天才って感じで誤魔化せそうだ」

よし今のうちに前から考えてた発をとりあえず作るか！

転生ものといえればこれだ

ステータス！

↓

名

マコト

職

基礎能力値

筋力 E 100

耐久 E+ 200 [700]

俊敏 E 100

オーラ量 E 100

幸運 B 800

能力

完全学習

瞬間記憶能力と瞬間技能模倣

健康

病気にならない

成長

成長限界がなくなる

言語理解

全ての言語を理解できる

メモリ

制限無しに能力を作れる

ステータス

自分の能力値を見ることが出来る

技能

オーラ操作 D

1

「やはり初期能力値は低くなってきているみたいだなあ

まあ地道に修行に励めばそのうち上がるかな

健康に言語理解とか神様サービス良すぎるな。

感謝しても仕切れないなこれは」

その後両親から念に関する説明をされ絶対に一般人に向けて使ってはいけないことなど注意を受けた。

これからは2人が修行に付き合ってくれるとのことなのでありがたく受けることにした

幸いゴンとは年が近いとわかっているので

1999年のハンター試験を目標に修行を頑張ることにするか

翌日からの修行では四五行に加え応用技を完全学習により見ただけで習得したため

に修行はもつぱら組手だった

また勉強に關しても瞬間記憶能力と前世大学まで行った学力を發揮した結果、両親の親バカが悪化したりした

幼稚園では友達と言うよりは保護者のように喧嘩の仲裁やぼつちの子供を遊びに誘ったりしているうちに気づいたら

リーダー役になっていた

小学校や中学校でも同じようなものだった

正直学び直すものはなかったので時間を無駄にしないための発や普段使いする便利な発をいくつか作った

影分身

オーラを消費して分身を作る

分身が解除されると経験は本人に還元される

制約

発動時に印を組む必要がある

強い衝撃を受けるとオーラが消費され、オーラが枯渇すると強制解除される
使用者の半径3キロより離れると分身体は念が使えなくなる

変化

自分の想像したものに変身する

制約

変身対象が本来の姿から遠ければ遠いほどオーラを消費する

オーラ消費量を増やすほど精度が上がる

アイテムボックス

物を出し入れする念空間を作る

制約

容量は自身の最大オーラ量に比例する

生物は収納できない

テレポート

思い浮かべた場所に瞬間移動できる

制約

自身のオーラを用いたマーキングを施していない場合距離に応じてオーラを消費する

一般人

他者から自分が非念能力者の一般人にしか見えなくなる

オンオフ可能

制約

能力行使中はオーラ消費量が自分の半径50メートル以内にいる人数により増加する

強くてニューゲーム

自身の記憶、能力、人格など肉体以外の全てを引継ぎ転生する

制約

転生先は二次元の世界のみでランダム

自殺では発動しない

影分身で修行の効率化、変化で年齢制限の突破、アイテムボックスは定番、一般人は身の安全と影分身と合わせての修行の超効率化、強くてニューゲームは保険と前世の二次小説を参考に他の作品の世界にも行きたいという願望のためである

これらを駆使して自己鍛錬に励んだ

そして原作開始となるハンター試験の年を迎えた

原作開始

原作が始まる時が近づいてきた

先月に中学は卒業した

ハンター志望だということは親にはあらかじめ言っており、またすでに親よりも強いことから反対はなかったが、学校側や友達には驚かれた。

それも限界突破した身体能力を体育の授業やマラソン大会などで発揮していたため、そこまでの反対は受けなかった

これまで天空闘技場で稼いだ数十億ジエニーや各種道具など準備はバツチリである

それとハンター試験の第4次試験対策として新たな発も作った

プライベートエリア

自分と自分が許可したもののみが入ることのできる念空間

この空間内には影分身労働力を使って作ったマイホームが建ててある

またジャポンの寿司職人に弟子入りして寿司も握れるようにはなっている。まあ使うつもりはないが

さあ両親ともこれでお別れだ

エリカ「マコト、あなたなら確実に受かるわ！」

合格したら必ず連絡してちょうだい！」

ハヤト「マコトは確かに天才だ、でも油断するなよ

念能力者には初見殺しの能力を持つものは珍しく

ないからな！」

マコト「分かってるよ。今までありがとうございました

行ってきます！」

目指すはめしどころご飯！

∴

「いらつしやい!!ご注文は？」

「ステーキ定食、弱火でじっくり」

「奥の方どうぞ！」

…
到着

まだゴンたちは来てないみたいだ

でも変態ピエロと暗殺兄弟はもういるみたいだ

まあ話しかける必要もないか

ゴンたちの周りは死亡フラグエリアみたいなもんだしなあ

話しかけてきたら普通に話そう

死んでも大丈夫という保険があると気が楽でいい

…

やつとゴンたちも来たみたいだ

そろそろ試験開始かな

「第一次試験官のサトツと申します。試験内容は私についてくることです。」

始まった

一応試験官のそばに寄っとくか

ゴンとキルア近づいてきた

「ねえ、俺はゴン、こっちはキルア、君の名前は？」

「俺はマコト、15歳だ」

「へえ近いね！よろしく！」

「ああ、よろしく」

その後、クラピカやレオリオも加わって志望動機を話したりした

しばらく走り続けると湿地帯に出た

変態ピエロが変身するお猿さんをトランプで殺したりしてたけど、他は特に問題なかった

二時試験会場到達

丸焼き 通過

寿司 通過者ゼロ まあ目立つ必要ないしなあ

会長が来てやり直しに

タマゴ 通過

飛行船乗船中俺の部屋をゴン達が来て探検に誘われた

正直興味なかったが、確かボール奪えば会長がハンターライセンスくれるって言ったのを思い出し参加することに

一般人発動中

ボールとつた!!?

ゴンが天井に頭ぶつけた瞬間にテレポートで飛びボールに触れすぐに短距離転移する事で不意打ちした

一般人の効果で念能力者ではないと会長を油断させつつ

某黄色い閃光ばりの瞬間移動という反則技である

2人に羨ましがられたが合格は合格って事で

ライセンスさをもらった

両親に連絡したら喜ばれた

色々準備したけど

割とあっけなく終わった

これからどうしようか

第4話

予想以上に呆気なく合格してしまった。

これからどうしようか

これまではハンターライセンス獲得を目標にしてきたからなあ

修行は続けるとして

これからの目標は何にしよう？自分の原作知識はキメラアント編までしかないからなあ

そうだ！カイトを助けよう！

実は自分はゴンがあまり好きではない

— というのも物語の登場人物としてはキャラ立ってていいなあという印象があったのだが、実際会ってみるとわがままな子供という印象になった

彼は第1次試験中にレオリオの叫び声が聞こえ、戻ろうとした時俺を道連れにしようとしたのである

何が悲しくて変態ピエロに自分から近づかなければならないのだ

というわけでゴン、ついでにキルアという足手まといがいるせいで、HUNTER×HUNTER登場人物の中でもかなりまともな人物であるカイトが死ぬのは我慢ならないのである

助けようと決めたがどうやって助けよう？

まあ3人に同行してピトーが飛んできたならテレポートで離脱すればいいか

そうと決まればそれまでどうしようか

転生先にこの世界を選んだのは

メモリ制限撤廃という特典？念能力Ⅱ能力作り放題

を実現するのに最適かつ、空气中にプロテインというトレーニング向きな世界だという理由だけなので、他にやりたいことが思いつかない

一旦帰宅するか

：

実家に帰ると両親がパーティーを開いてくれた

かなり嬉しい

たしか原作ではゴン達はこの後ゾルディック家訪問、ゴンの実家訪問、ヨークシンで幻影旅団とバトル、グリードアイランド、キメラアント調査というながれだから

グリードアイランド内で再開すればいいか

ドッチボールの時に参戦するのが理想的かな

それまではのんびりしつつグリードアイランドを楽しもうかな

お母さんに美肌温泉と魔女の若返り薬プレゼントしたら喜んでもらえるだろうか

よし、バツテラさんに連絡しよう

確か奥さんはゲームクリアが間に合わず死んでしまうはずだったから、助けられると
か言えばソフトごともらえそうだな

病気の場合と念による呪いの場合に備えて新しい発を作った

ブラックジャック

能力者の持つ医療技術で治すことが可能な病気や外傷を確実に治す

制約

診断が正確でなければならない

能力者には医療の知識が必須である

僕は陰陽師

陰陽師っぽいことができるようになる

制約

能力発動時は陰陽師の服装でいなければならない

医者といえばブラックジャック先生である

助手は必要ない

除念とかお祓いとくれば陰陽師である

服装は趣味である

：

変化で威厳を出しつつ交渉した結果、試しに他の患者の治療をし、成功したら奥さんの治療、成功すればソフトがもらえる。ということになった

∴

何事もなく成功した。すごい感謝された

いいことしたなあ

報奨金の500億とかはそのままに魔女の若返り薬とかお勧めして、依頼を継続して
もらうよう頼んだ

これでゴンとキルアがカイトのところに飛べる

自分はどこからプレイしようかな

∴

結局プライベートエリアの自宅からプレイすることにした
いざグリードアイランドへ

第5話

グリッドアイランドをプレイするにあたり

ゲーム内のアイテムに欲しいものがいくつかあったので新たな発を作った

双子呪文

触れたものと同じものをもう一つ生み出す

制約

対象物の希少性、特殊性、質量に応じてオーラを消費する

マスターチェンジ

触れたものの所有権を奪う

制約

前所有者との実力差に応じてオーラを消費する

これらを組み合わせれば

ゲーム内のアイテムをゲーム外でも使えるだろう

あとは何か準備することはあるだろうか

そうだ！操作系能力対策をしよう

操作系能力は早い者勝ちだから自分で自分を操作すればいいや

別天津神

あたかも自分の意思で行動してるかのような精神操作能力

制約

相手と目を合わせる必要がある

一度使うとしばらく使用不能になる

影分身に「やりたいようにやれ」とかけてもらって準備万端だ

よし行くか

：

GIに入った

プレイヤーネームはトウルー

後悔先に立たず

自分のネーミングセンスのなさに泣けてくる

あらかじめ考えておけばよかった

とりあえず初心者狩りをボコってカードをもらい

情報提供をオネガイした

みんな話せばわかるじゃないか♪

ゴンたちが来るまでに満喫しないと

：

G Iがここまで素晴らしいとは思わなかった

美肌温泉の効果がばない

これが赤ちゃん肌

これがツルンツルンの指通りってやつか

他にも酒生みの池、不思議池、メイドパンダ、シルバードッグ、マッド博士シリーズの薬、魔女シリーズの薬、長老シリーズの薬、バーチャルレストラン、才能を得られる卵シリーズ、カメレオンキャット、アドリブブック、スケルトンメガネ、リサイクルルーム、縁切り鉢、幸運通帳、黄金天秤、豊作の木、湧き水の壺などなど

素晴らしいものばかりだ

これから行く世界でも間違いなく役にたつだろう

美肌温泉を勝手に実家に設置してお母さんを招待したら

今までで一番喜んでいた

またG I内に影分身を変化させて放ち修行に励んでいる

念能力者やモンスターとの戦闘経験がたくさん積めて最高である

これでよほどのことがなければ死なずに済む

早くゴンたち来ないかなあ

∴

やっとゴンたちが来たようだちよくちよく分身が見かけるようになった

∴

ついにドッチボールチャレンジだ

よし行くか

「よおゴンにキルア久しぶり」

「マコト!? ひさしぶり! マコトもプレイしてたんだね」

よし紛れ込めたぞ

：

なんとか一坪の海岸線を手に入れることができた

影分身で人数稼ぎに貢献したからか他の人からの印象も良さげだ

このままゴンたちと行動してレアカードはさりげなくコピーする作戦だ

：

そのままゲンスルー等との戦いをスルーしたりして

ついにゲームクリアを迎えた

ちやつかり支配者の祝福もコピーさせて貰い

異世界転生系の二次元世界に転生した場合に対する備えもできた

ぶつちやけ城と城下町セットでその上住民はルールを守るとか反則だ

ゴンたちがアカンパニーを選んだのも確認した

さあこれからは気を引き締めないとな

第6話

ゴンたちとともにカイトの元へ飛んだ

2人が突き飛ばされた時に反射的に距離をとつたら驚かれた

その後カイトがキメラアントの説明を受けたり

ゴンとカイトの会話を聞き流したりした

途中、会長とのゲームの話になったのでレポートを使ったことを話し、自分の念能力が影分身とレポートだけだと勘違いされるように誘導しといた

：

カイトのチームと合流し行動をとめることになった

カイトやチームの仲間がキメラアントについて調査している様子を観察してみる

仕事のできる大人って感じがした

2メートルの蟻とかまじで見たくない

実は自分は虫が大嫌いなのだ

：

NGLあるへ向かう飛行船の中で

ゴンがなんか主人公っぽい台詞を吐いた

いやカイトが危ない状況でカイトより弱いのに立ち向かうとか、邪魔じゃね？
そこんところよく考えてほしい

：

NGLについて

入国口のハイテク機器の数がすごい

全然自然じゃない

ここでこんだけ機械使ってるんだから

ちよつとは持ち込ませろや

まあアイテムボックスがある自分に死角はない！

：

入国した

監視がうざかったけど

馬を降りて4人だけで走り出したときの顔がおもしろかったからよしとしとくか

：

森の中で見覚えのある帽子が血痕とともに見つかった

確か可愛い女の子だったはずだ

美少女を殺すなんてやはり虫は絶滅すべきだと思う

：

いかにも嘯ませキャラっぽいやつをゴンとキルアがボコった

工場跡で三体の虫と戦闘になった

カイトにケンタウルスっぽいやつを任せられたので瞬殺しといた

見た目はもう虫じゃない感じだけど、なんかこうゾワつとくるからやっぱりましなんだなと思う

：

たくさんのキメラアントに囲まれた

ゴンたちが戦うっぼい

いつのまにか実力が認められた？

カイトが多めに倒した

大鎌はロマン武器だよなー

：

ライオンっぼいやつらを追いかけることになった

そろそろだピトーさんがくる

：

来た!!

カイト「逃げろ!!」

すぐさま3人分影分身して

マコト「みんな俺に触れ！」

カイト「っ！なるほど！」

NGL入国口付近にテレポート

カイト「いい判断だマコト」

まあ知ってたからね、言えないけど

その後、ピトーさんマジやばいって話をして一旦出国し準備を整えることになった

：

その後チームの仲間と合流

ゴンとキルアはカイトに修行を義務付けられることになった

自分は攻撃系のある能力がないということになってるので

直接戦闘は避け、サポート役ということになった

影分身をみんなにつけていつでもテレポートできるといふ反則技使うことにした

：

色々あった

これから城に突入することになっている

ノブさんの4次元マンションで待機しているところだ
気合い入れていくぞ！

：

直属護衛軍と王様強すぎないか？よく原作で勝てたな

死んだ

キルアから見たマコト

俺はキルア・ゾルディックついこの前家出してきた暗殺一家の三男だ
面白そうだからハンター試験つてのを受けてみることにする

：

ゴンつてやつと知り合い一所に行動することになった

こういうのを友達つて言うんだらうか？

そんなことを考えているとゴンが俺らより少し年上のやつに話しかけた
そいつはマコトつていうらしい

なんだろうこの違和感は

見た目から何からいかにも一般人だしおかしいところはないはずだ

っ！こいつこんだけ走ったのに汗ひとつかかないどころか息すら上がってない
見た目と雰囲気は実力があつてないんだ

なんなんだこいつ

そもそもこいつよく見たら見た目がかなり整ってる上に体もかなり鍛えてあるのに
なんで一般人に見えるんだ!?

だめだ意味わかんねえ、とりあえずあんまり関わらないようにしよう

：

第二次試験は料理か、やばいな

1人目はなんとかなったが2人目はスシだと？

ハンゾーってハゲのせいで審査が厳しくなりやがった

ちくしょうやばいかもしれない

そういえばあいつはどうしてるんだ？

っ！あいつなんか違う料理してやがる

なんなんだ？あいつはもう諦めたのか？にしては顔に負の感情が感じられない

そのまま合格者ゼロで試験終了になった

しかしあいつはなんなんだ得体がしれねえ

ん？上を見上げて笑った

すると上から声が届き試験がやり直しになった

声が聞こえるまであの爺さんの存在に気づいたのはこの会場であいつだけという事
実に冷や汗が出てくる

見た目と矛盾した実力に異様に高い気配察知能力

あいつと敵対した時俺は勝てるのか？

：

その後再試験を通過し飛行船に乗った

ゴンが探検に誘ってきたそしたらあいつも誘うと言い出した

まああいつはどこか俺たちに一線を引いてるところがあるから断るだろう

誘いに乗りやがった！だめだほんとこいつ意味がわからない

：

会長の爺さんとゲームをすることになった

やって見たがダメだこの爺さん遊んでやがる

ゴンは続けるつもりみたいだが無理だろう

ゴンのやついいところで飛びすぎるとか面白いな

っ！なん…だと？

いつの間に取った？いやそれ以前にいつ動いた？

少なくともこいつの速度は俺が目で追うことすらできないってことか！？

なんか爺さんも驚いた顔してるしこいつは理解不能だ

まあこれでこいつはライセンスもらって終了だからこれ以上会わなくていいのか

：

レイザーに再選を挑もうとしたらあいつと再会した

なんだこいつの濃密なオーラは!?

しかもあいつの発は分身らしい

あまりにもタイミングが良すぎる

ほんとにこいつは何者なんだ？

：

レイザーに勝った後いろいろあつてゲームクリアした

あいつの実力は本物だった正直ピスケより強いんじゃないか？

：

ジンに会いに行ったらカイトにあった

ゴンとカイトの話が会長とのゲームになったとき

ゴンがマコトにどうやって撮ったのか聞いたら

もう一つの発の瞬間移動を使ったらしい

ゴレイヌ以上の分身に瞬間移動だど!?

制約が厳しいらしいがそれにしたって強力だよっぱりこいつただもんじゃねえ

∴

カイトについていきカメラアントの調査に携わった

一度撤退した

マコトがいなかったら誰かしら犠牲になった可能性が高い

∴

修行を終え再度アタックを仕掛ける

∴

かなり厳しい戦いだっただ

途中マコトの分身
が消えて驚いたがどうなったんだ

あいつは死んだらしい

なんでも王や護衛軍に一番警戒されていて

結局前に遠くからすつ飛んできたネコみたいなやつに

王と戦っている時に捨て身の特攻を食らったらしい

やつぱりあいつの実力はとんでもなかったんだ

にしても死んじまったからあの違和感の正体がわかんないままか

まあゴンもカイトも無事だったみたいだし

気にしなくてもいいか

ハリーポッター編

第8話

無事転生できたようだ

まずは状況の確認だ、ステータス

名

カイル・グレンジャー

職

基礎能力値

筋力	E	100	(A)	1300
耐久	E	100	(B)	950
俊敏	E	100	(A)	1500
オーラ量	EX	91000		
魔力量	EX	45500		

幸運 A 1300

以下略

1

ほうほう、身体能力の低下はしようがないとして

オーラがなんか倍以上に増えてる

これが噂の死後のオーラ強化ってやつか

まあ増える分には問題ないか

ん？魔力量？

これは！まさか！魔法使えるのか！

そういえば前前世と前世を合わせると俺は立派な魔法使いだった

今は体は3、4歳くらいか、円を広げる

隣の部屋に同じ年くらいの女の子

その隣の部屋に両親と思われる男女

ここは二階で一階は診療所？

歯医者か

ん？んんん？

ファミリィネームがグレンジャーで

親は歯科医

さらに姉か妹であろう女の子

これは、

ハリポタだあああああ!!! ホグワーツだ！お辞儀様だ！

めっちゃワクワクする

守護霊の呪文とか胸熱だ

：

翌朝、家族と御対面した結果

やばい、ハーマイオニー超かわいい

天使だ、半端ない

将来はエマワトソソみたいに美人になるに違いない

そういうえば、転生できたってことは二次元世界に当たるはずなのに

登場人物は実写映画の俳優さんの見た目なのか

まあ細かいことはいいや

今生の目標はすぐに決まった

マイエンジェルを守り幸せにするることだ!!

あ、ハーマイオニーはギリ学年は同じだが、妹だった

：

それからプライベートエリアで魔法の修行、普通のトレーニング、分身を変化させ
ダイアゴン横丁のオリバンダー等に弟子入りさせるなど、自重せず研鑽を始めた

さらに修行時間の確保のために作ってしまったんだ

あの部屋を

それは

精神と時の部屋く必要に応じてく
時間の進む速さを調節できる空間
入る前に願った部屋となる

制約

この空間にいる間はオーラ消費量が増える
この空間で手に入れたものは持ち出せない

二次小説でおなじみの必要の部屋が不要な部屋になった
後悔はしてない

そういえば今生の自分の幸運Aのおかげか我が家はかなり裕福だ
お母さんが自分磨きにお金を使う余裕があるくらいだ

原作知識から我が妹はこのままでは人付き合いが苦手なままになってしまおうとわ
かっていたので

俺はとある計画思いついた。

それは

『ハーマイオニー完璧美少女化計画』

内容は俺が自重せず、マイシスターに魔改造を施すことのみ

ふはははは

ホグワーツに行ったらみんなはんのうするのかな？

フォイフォイクン、穢れた血なんて言わせねーよ？

：

第9話

時はきた

俺たち兄妹はともに11歳になった

魔改造計画により

ハーマイオニーはパーフェクトハーマイオニーに進化し、

理想の女の子になった

まず、自分の存在により頭が良すぎてまわりとの壁ができることがなくなり

また兄である自分との差を努力で埋めてきた経験から

周りへの指導は的確になり

とても優しく芯の強い性格に

外見は俺が自重を捨てて頑張った

肌は赤ちゃん肌

俺がうちの庭の一角に掘り当てたことにした美肌温泉の効果だ

髪の毛はつるんつるんの指通りに流行の最先端の髪型

影分身で名だたる店で修行をつけた自分以外には任せられない

服装は彼女自身のセンス高さに任せている

前歯は寝ている間に普通のものにしておいた

こうして超絶美少女の完成である

さらにさらに

影分身が変化した旅の魔法使いという設定の老人に魔法の使い方と教わるという体で魔法の鍛錬も積んだ

杖なし無言で、ある程度の魔法が使えるようになってしまった

さらにさらにさらに

周りから見れば重度のシスコン以外ハーマイオニー以上の俺に劣等感を抱かないように

あらかじめ超一流ミュージシャンの卵を幼少期に先の老人経由で渡したため

実名非公開の一流ミュージシャンを俺とコンビでやっている

やはり誰にも負けないというものが一つあるのは大事である

あ、ちなみに自分は大物政治家の卵と大俳優の卵を使った

これもマイエンジェルを守るのに役立つであろう

ついでに俺自身のことを少しだけ
自重を捨ててやりたい放題した結果、

いわゆる超優良物件になっていた
ハーマイオニーに似た整った外見

さらにお金持ち

美肌温泉を掘り当て、それを利用した温泉旅館を設立し、それが大人気
ちなみに影分身労働により人件費ゼロである

性格は精神年齢の高さから大人びて見られる

自覚しているが重度のシスコンだ

かなりモテたがかなりのシスコンっぷりと妹が完璧美少女だからか告白されること
はあまりなかった

された時は丁寧にお断りしておいた

同年代の女子からは、美容や恋愛に関するアドバイスをよくしていたことから「美の
伝道師」「恋愛マスター」

男子からは、格闘技やトレーニングの指導をよくしていたことから「武の伝道師」「筋
肉マスター」

などと呼ばれたりたりもした

まあ一番は「シスコン魔王」だったが

：

ホグワーツから入学許可証が来た

マグゴナガル先生は魔法を全く疑っていない自分たち家族の様子に疑問を持ったのか魔法を知っているのか聞いてきたので、旅の魔法使いから教わったというあらかじめ用意していた話をした

先生は驚くとともに納得した様子だった

魔法を使って見てほしいと言われたので、自分は杖なし無言でハーマイオニーは杖なしで呪文ありで守護霊を出したら

とても驚いていた

その魔法使いについて聞かれたが、思い出そうとしても魔法を教わったくらいしか思いつけないという大俳優並みの演技をしたら、高度な忘却術云々呟いて勝手に納得してくれたようなのでほっといた

後日ダイアゴン横丁へ買い物に連れて行ってくれた

第10話

現在、俺たち兄妹は9と4分の3番線のホームにいる

周りの人は、俺たちに気づくとポカンとした表情になり、道を開けてくれる

そうだろうそうだろううちの妹は可愛いだろう？

特に話しかけられることもないまま乗車した

：

列車が発車してしばらくするとネビルがやってきた

そういえばマルフォイたちの悪戯だったかな？

そんなことを考えているうちに妹が呼び寄せ呪文でカエルを呼び寄せネビルに渡し

てやったようだ

ネビルはとても感謝していた、それに対し妹は大したことはない返し、もう目を離さないようにと軽く注意する

さすが完璧美少女、素晴らしい対応だ

：

しばらくするとマルフォイたちが俺たちのいるコンパートメントにやってきた
ネビルがカエルを取り戻したのに気づいたようだ

そしてそれをした妹を確認しに来たと言ったところか

フォイは妹を一目見るとその美貌に完全に見とれている

ふっ、惚れたな

彼女が挨拶をすると、ハツとして挨拶を返した

育ちの良さが伺える

ついでに自分も挨拶をしないと、ちよつとオーラで威圧するのも忘れない

すると思いのほか友好的な姿勢を見せた

彼女に嫌われないようにという気持ちが見え透けて見える

なんとも年頃の男の子らしい反応だ

その後、会話する2人を見ているとフォイのスリザリニアピールが始まって次第に純
血主義の話になった

ファイは俺たちから溢れる品の良さ、魔法に対する知識の深さから純血の良家出身だ
と勘違いしてるようだ

そこで、彼女が自分たちはマグルだというと彼はとても驚き困惑している

かわいそうだから、助け舟を出すとしよう

俺たちの師匠から聞いたという設定で純血主義を唱えたサラザールスリザリンの考えを勝手に想像し述べた

かつて多くのマグルと魔法族は共に生きていた

しかし人間とは自分と異なるもの、脅威になりうるものを排除しようとする生き物であるから

魔女狩りと言った魔法使い排斥の始まった

そこで4人の偉大なる魔法使いによつて魔法使い保護のためにホグワーツが設立された

それからしばらくは平和な時が過ぎたが

ゴドリックとサラザールはホグワーツに対する考え方で対立した

マグル出身の魔法使いを受け入れるか否か

受け入れる場合少なからず間者や魔法族に対する悪影響などのリスクを負うが、全ての魔法使いを保護できる

ゴドリックはリスクを冒してでも全てを救うことを優先し

サラザールはリスクを排除して安全を優先した

そして他の2人がゴドリックについたためサラザールはホグワーツを去った、バジリスクをいざという時に魔法族を守れるように秘密の部屋に残して

話を終えフォイの様子を見ると衝撃を受けているようだ

これで彼の考えがマイルドになってくれるといい

一応この内容が真実であるという保証はないと言及しつつ

現代においては魔法使いの存在はマグルには秘匿されており危険もないためマグル出身の魔法使いを受け入れても問題なく、現代の一般的な純血主義では血が濃くなりすぎるといふ点を指摘しておいた

フォイはとても感激した様子

マルフォイはマイルドマルフォイに進化した

その後これからの生活について話していると、

フォイは思い出したようにハリーの話をして会いに行こうと誘ってきた
ちようどいいのでついていくことにする

：

ハリーのあるコンパートメントに着くと

ロンがフォイに嘯み付いた、しかし彼はすでにマイルドに進化したからかさりと受け流し、大人な対応を見せた

これには自分もびっくりである

影響受けるの早すぎないか？

その後、ハリーに先ほど聞いた話を嬉々として語り出した

ロンが邪魔しないのが不思議で様子を見るとハーマイオニーに見とれていた

ふっ、惚れたな

第11話

フオイがハリーに一方的に話しているのに気づき、落ち着きハリーにお辞儀様の話を振った

するとハリーは赤ん坊の頃の話で覚えてないし、自分はこれまでマグルの家で育った、自分の身に覚えのないことで賞賛されるのはあまり嬉しくないとのこと

そりやそうだ

フアイは話題選びを間違えたと思ったのかバツの悪そうな顔をしている

そこで気を利かせた完璧美少女我が妹ハーマイオニーが

ホグワーツの寮について話を振った

流石我が妹、完敗な対応だ。あ、目で合図してきた

たしかにこの話はロンとフオイは説明に向かないからな

お兄ちゃんに任せなさい

ホグワーツの寮は四つあり、それぞれ4人の創設者の名のグリフィンボール、ハッフルパフ、レイブンクロー、スリザリンという寮名である

組み分けには被った者の資質や重視していることなどを読み取る魔法の帽子が用い

られる

グリフィンドールは勇敢さ

レイブンクローは賢さ

ハッフルパフは優しさと誠実さ

スリザリンは優れた才知と狡猾さ

などが求められる資質と言われている

話が一旦切れるとロンとフォイによるハリーの勧誘が始まった

ハリーは対応に困っているようだ。何を思ったのか自分に予想を聞いてきおった

2人がいる前で聞くなんてやってくれるぜ

まあハーマイオニーの安全を考えると、これから起こることが原作知識により予想できるとはかなり大きいので

グリフィンドールを進めておくか

とりあえず

レイブンクローは、魔法に触れて間もないハリーには合わない

ハッフルパフは、割と普通な子が多く、生い立ちから育ちを加味して特殊なところが
多いハリーは選ばれない

スリザリンは、血筋的に資質はあるだろうが、現代の純血主義に染まってる子が多く

また良家の子どもが多くマナーに厳しいところから、慣れるまで大変
消去法でグリフィンドールの可能性が高い

と言ってみた

するとロンは歓喜したが、フォイはうなだれた

彼もスリザリンでハリーが生活する際の苦勞が予想できたのだろう

こういう説明をすればハリーはスリザリン入りを拒否するだろう

そろそろ到着するはずだ

：

到着し、大広間に入り組み分けが行われた

組み分けは原作通りだ

俺？グリフィンドルだよ

え？お前はスリザリンだって？

知ってるよ、しかし妹を守るためにはある程度そばにいた方がいいとおもうんだ

手段を選ばずに組み分け帽にマスターチェンジを使い、所有権を手に入れグリフィン
ドルをコールするように命令したのさ！完璧だろう？ついでにハーマイオニーに良
くない感情を持っている輩は他寮へ流すよう命じておいた

俺からすればスリザリン生の狡猾さなんて甘いのさ
やるからには全力で、徹底しないと

第12話

各々の寮で歓迎の催しが開かれているようだ

円を全力で広げたところホグワーツ一帯を把握できてしまった

歓迎の催しではハリー、俺たち兄妹が主に目立っているようだ。

魔法界の英雄よりもうちの妹の方が注目を浴びている、さすがうちの妹

実はホグワーツ入学の時期が来るまで、妹のことで頭がいっぱいだったからかハリーのことをすっかり忘れてしまっていたのだ

正直助けられるだけの力を持っていた、大人の精神を持つ者としてとても罪悪感を感じている

故に、ハリーにはなるべく普通の生徒として楽しい学校生活を送って貰いたいのだ

そのためには、彼よりも目立つ存在がいることはちようどいい

陰ながらサポートしていこう

:

ホグワーツでの生活が始まった

ほとんどの新入生が慣れない環境に四苦八苦しているなか、

俺たち兄妹は目立った、周りに同級生が集まってくるからだ

教室移動時には、自分が先頭に立ち円により道を把握、先導し

ゴーストのいたずらには陰陽師の力を使い撃退した

最初は少人数だったのに、気づけばみんなのガイドのような役割になってしまった

授業時には、妹と2人で点の荒稼ぎをしている

変身術の授業で、妹が猫に、自分がフェンリルに変身（実際は何にでも変身可能）した時のマグゴナガル先生の仰天ぶりは面白かった

：

ついに原作にも出てきた魔法薬学の授業がやってきた

原作では、ここでハリーはスネイプ先生の質問に答えられず減点をくらうのだが俺が手を貸すハリーは一味違うのだ！

実は授業が来るまでに、ハリーに記憶の兜をつけたまま全学年分の教科書を用いつつ魔法薬学の授業をしておいた

ちなみに記憶の兜とは、被っている間に見聞きしたものを忘れない

という効果を持つG Iのアイテムである

ずつと頼りきりは良くないので使い切りのアイテムだと説明しておいた

またスネイプ先生にはハリーに辛く当たってしまう事情があるため一回の授業は怒

らないでほしい、2回目までにはなんとかすると説明して、他の人には秘密にしてもらった

そのためこの授業では、ハリーはスネイプ先生の質問にことごとく答えてみせた
先生はとても驚いていた

授業後、分身を使つて教室に残りスネイプ先生に背後から近づき金縛りの呪文をかけ
拘束

話しかけた

「手荒な真似をしてすいません、こうでもしないと話を最後まで聞いてくれないと思い
先に拘束させて貰いました。

実は先程やたらとハリーに突つかかる先生の態度に疑問に思い

勝手ながら開心術をかけさせて貰いました。

すると先生は、ハリーの父およびその友人たちに良くない感情を持つとともに、ハ
リーの母には片想いをしていた

そしてその想い人の死に後悔し、今は想い人の忘れ形見を陰ながら守っているが、ハ
リーの父親に似た姿に複雑な思いを抱えている」

話を聞くうちに先生は顔に恐怖を浮かべている

何故だろう？

まあいいか

「正直言わせてもらおうと、ハリーを守りたいにしろ、いい年した大人がまだ11才の子供に意地悪するのはカッコ悪いです、そして何より…

うちの妹がずっと拳手しているのに無視するとは何事だ！」

あれ？先生の顔が恐怖から呆れ顔に変わっている

まあいい

「とりあえずハリーを守る意思はたしかなようですし

僕も鬼ではありません、こんなものを用意しました」

懐からとある葉書を取り出した

「これは僕が師匠からいただいた死者への往復葉書というものです。送りたい相手の名前を書いて手紙を出せばその人からの返信が届きます。これで自分の気持ちにケリをつけて下さい、

そして次回からはハリーに意地悪しないでください

またこれが一番重要ですが

うちの妹を無視しないように！

大事なことからもう一度

うちの妹を無視しないように！

では失礼します、今回のことは互いに秘密ってことで」

そう言っつて返事がくる前に退室した

：

次の授業からはスリザリン鼻肩はそのままだがハリーや妹には加点するようになった

た

自分は何故か避けられている

第13話

とりあえずハリーの生活の障害になりそうなことには対処しておいた

これからは原作に登場する危険のもとを潰していくことにする

：

まずは賢者の石だ

魔法で透明化し、さらに絶をすることで全ての関門を突破石を手に入れた

そこからニコラスフラメルに石の破壊許可をもらい（変化中）ついでに錬金術の教えてもらった。校長室へレポートし、ダブルドアの前で破壊そのままフラメル邸へ転移してトングズラした

：

お次は秘密の部屋だ

女子トイレなのでホルモンクッキーを食べ侵入し、言語理解によつて蛇語を使い扉を開いた

目を閉じたまま秘密の部屋にてバジリスクと対面、あらかじめ作っておいた発を使つた

使い魔契約

契約対象を使役できる、使い魔は主の不利益となる行動はとらない、主は使い魔を召喚できる

制約

主は使い魔に快適な生活環境を提供しなければならない、理不尽な命令は行使できない

契約後バジリスクに説明をした、そして魔道具作成Bで作つといたバジリスク専用魔眼抑制コンタクトをプレゼントした

すると思いの外喜んでくれた

これから長い付き合いになることを考え名付けをすることにした

生前の幼少期に多大な影響を与えた優しい王様を目指す魔物の子供と思春期天才少年の物語に出てきたお気に入りキャラにちなんで、『バリー』と名付けた

とても喜んでもらえた

とりあえずプライベートエリアの一坪の密林に住んでもらうことになった

なんでも魔眼を任意で発動できるようになったから他の生物がたくさんいそうなところがいいとのことだ

やはり寂しかったのだろう

…
そうだクレイル先生に取り付いている悪霊を浄化してあげないと

先生が1人の時を狙い、魔法と絶のコンボで接近、金縛りで拘束し、陰陽師パワーで即消滅、レポートで退散

ここまでで3秒、なかなかのタイムだ

…

お次は魔法省に飛んだ

ファツジ氏に不意打ちで別天津神を使ったこれで魔法省はクリーンな組織に生まれ変わるだろう

とりあえずアンブリッジを罷免しとくよう指示し、

本命の、アズカバンの囚人たちに真実薬を飲ませ余罪や冤罪の確認、極悪人には磔の呪文による拷問、服従の呪文による強制労働を課すこと、という指示を出した。

これによりシリウスブラックの冤罪が判明し、釈放された

また極悪人ピーターペティグリューの一斉捜索が始まった

シリウス冤罪、ピーターの逃走中の新聞が出た日に

ロンのもとを訪れ、ピーターを拘束、魔法省に連絡し引き渡した。先生方には記事にピーターの指のことが載っており

アニメーガスだと予想しスキヤバーズに思い至った、

ロンとハリーが危険だと思っただらいてもたつてもいられず

行動したと伝えると注意と点をもらった

第14話

学校生活を影分身に任せつつ、いずれくる危険の芽を摘んでいたら一年が終わった
試験の結果は

一位俺、筆記実技ともに

二位妹、筆記同率一位、実技二位

レベルが違いすぎた

というか授業やりすぎたかな？

うちの妹近接戦闘もできることを踏まえると、ダンブルドアより強いんじゃない？

寮杯もグリフィンドールだ

やっぱやりすぎたかな？

：

生徒は自宅に帰ることになった

ハリーはシリウスと暮らすことになったらしい

シリウスからピーターの件でお礼の言葉を伝えられた

いえいえうちの妹のためですから、とは言わないでおいた

：

2年目が始まった

ハリーとロンはシリウスに送ってもらったらしい

新入生が初々しい

：

しばらく経った頃

ウィーズリー兄弟に

ジニーが悪霊に取り憑かれていると報告、陰陽術で除霊するから家族に同行してほしい、除霊時に悪霊がジニーの体を乗っ取るかもしれない

女の子の体に赤の他人が触れるのは良くないからもしもの時は拘束を頼む

と依頼

みんな快く了承してくれた

家族からの呼び出しにジニーは現れ、魔法と絶コンボからの除霊は何事もなく成功した

ジニーは最近記憶がない時があつたと兄たちに話していた

自分は何か悪霊に取り憑かれるキツカケに心当たりはないか聞くと日記と言われた

日記を浮遊呪文で触らずみんなと外まで運び悪霊の火で焼き尽くした

ジニーは一段と元気を取り戻したらしく

とても感謝された

なんか顔が赤い

鈍感系主人公じゃないからわかってしまう、しかしジニーは確かハリーと結ばれる予定のはずだ

すでに原作はほぼ崩壊しているがハリーから結婚相手を奪うわけにはいかない
とりあえずシスコン感を醸し出しとくか

：

何事もなく2年目が終わった

え？経歴詐称がないって？

彼は魔法省が匿名のタレコミで経歴詐称疑惑で捕まり真実薬を飲まさずカバン送りとなったよ

：

3年目、

何事もなく終了

：

4年目

三大魔法学校対抗戦なるものが開催された
年齢線を軽く超え、炎のゴブレットをマスターチェンジで操りハリーを弾くよう命令
した

:

他校は原作通り、ホグワーツは自分になった
みんなやっぱりって顔してる

俺ってどんな風に思われてるんだろう？

:

各種目でぶつちぎり1位だった、ちようど今優勝杯に触れ、墓場に飛んだところ、な
んかモブっぽい人が倒れててお辞儀さんがいた

目が合った瞬間鬼のような形相で攻撃してきたのでいつものコンボで密ませていた
影分身で後ろから忘却術を食らわせたら倒れた

元の場所に戻ったらどっかの先生に連れ出され急に襲われたので返り討ちにした
会場に戻って先生方や魔法省の人たちに

優勝杯に触れたらジメジメした墓場に飛んで

なんか厨二病をこじらせた不細工な人に襲われたのであしらってたらしっこかった

ので忘却術使っちゃいました

そのあとこの先生に人気のない場所に連れてかれて襲われたので拘束しました
と報告したらみんな頭痛そうにしてた

∴

のちに先生方や魔法省の調査で倒したのはヴォルデモートとその手下と判明

学生が連れ去られたと思ったら全部倒しちゃいましたということが新聞に載ると一

躍大騒ぎ

なんか勲章もらったり、表彰されたりしたが

正直悪の帝王（仮）って感じだった

やっぱ影分身最強

∴

5、6年も何事もなく終了、卒業した

∴

あれから80年

卒業後は、マグル界では妹とホテルや旅館を多数経営し

魔法界ではいたずら仕掛け人2人の店のスポンサー兼アドバイザー兼通常の魔道具

担当をやったり

ハリーとともにクディッチのプロになったりとやりたい放題した

心残りは妹に構い過ぎたせいかわれが妹がブラコンにいつのまにかなっており結婚しなかったことだ

最愛の妹の寿命もあとわずかとなった

ふと「何かお願いはないか？」と聞くと

「兄さんは何者か教えて」と言われた

まあもう教えていいか、と思い

自分のこれまでを話した

すると自分もついでに言われてしまった

しかし、妹は転生できない

困った俺は生前のお気に入りだったとある二次小説の方法を使うことにした

とりあえずプライベートエリアに入って貰い魔女の若返り薬をたくさん飲んで貰い待つてもらったことにした

：

あれから20年流石に長生き過ぎるオーラ保有量が多すぎてなかなか死なない

この20年間ハーマイオニーには念の修行をつけてきた

ハーマイオニーももう超一流の念能力者だ

：

全然死にそうにないので

精神と時の部屋の時間の流れを外のうん千倍にしてやっとな寿命がきた死ぬまでにいろんな技術を蓄えたから次の世界で生かしたいな

進撃の巨人編

第15話

何度目かの転生をした。

今回は記憶が記録映像のように流れてくるタイプの転生のようだ

おお久し振りに知ってる世界だ

これすごい人気だったけど、実際に生活する側からするとふざけんなって感じた
死亡フラグというより死亡エリアだな、絶対ハーマイオニーは出さないぞ不老であつて不死じゃないからな

もうおわかりいただけただろうか？今回の転生先は

進撃の巨人だ

：

今は838年、5歳だ

今生の名前はカイル・アルレルト

そうまさかのアルミンの兄である、アルミンは3歳だ

そしてなぜか5歳までの記憶に両親がいない

完全記憶は生前のものはあやふやなままの完全な記憶だから原作知識も役に立たない

アルミンの親ってなんか口減らして死ぬんじゃないか？あれ？気球作ったから
だっけ？

まあいないものはしょうがない今はじいちゃんとアルミンとの3人家族仲良く頑張るか

アルミンは確か子供の頃近所のやつにいじめられるんだよな、力も強いほうじゃないからみんな大好き合気柔術を仕込もうかな、アルミンに物心ついたらグリシャにつきまとして医者見習いにしてもらおう、あとは爺ちゃんを農業博士みたいにするれば口減らしに行かない口実ができるな

：

842年、現在9歳だ今では立派な一人前の医者だ。あまりに優秀で聡い子だからかグリシャに地下室を見せてもらったり、壁の外の歴史について教えられてしまった。さらに感想を聞かれたのでつい

「人間はとても醜いと思いました、それにエルディア崩壊あたりの歴史の説明には矛盾を感じますね。正直全ての巨人を操る始祖の巨人の継承者は反乱を起こす側つまりマーレ側なら確実に潰すはず、故に実際には当時の継承者が当時の環境に嫌気がさして島に引きこもったという方がまだ納得できますね

また現在まで壁内から始祖の継承者が出ようと思わないのは不自然ですので出れないもしくは出ようと思わないように洗脳されているといったところでしょうか、

正直、人種差別なんて愚かとか言いようがないですね

人殺しの子供が人殺し扱いされたら

人類皆人殺しですよ？祖先の多くは人殺しなんて普通にやってたでしょうし

そもそもほぼ確実にどちらの人種の血にも同じ流れをくむ血がに流れてるじゃないですか

頭おかしいんじゃないですかね

多分今頃マーレは自分たちを虐げてきたエルディア帝国の象徴であった巨人の力で戦争で勝ちまくって喜んでるんじゃないですかね、自分たちがボロクソ言ってる国と同じことをしていると気づかずに

今のマーレ人も過去のエルディア人も人を個人で評価できない愚かな人間だと思います

ていうかくだらないことしてないで他国が巨人の力以上の武力を手にしたときに備えないとどちらも滅亡まっしぐらですよね」

とか言ったらまた驚かれたちよつと喋りすぎたかな

第16話

844年、これまでグリシャさんの付き添いで何度かアツカーマン家に来たことがあり両親がいい人だったことやミカサと遊んだりしたら、愛着がわき殺されて欲しくないと思つたためこれまで陰ながら護衛していた

護衛の影分身の円に強盗殺人と児童誘拐の未遂犯が引つかかった

これまでグリシャさんや家族、親しい人の前で頻繁に勘の鋭さや腕っ節の強さをアピールするという地道な努力をして来た

今日はアツカーマン家に診察に行く日である

グリシャさんやみんなにこれまでで一番やな予感がすると言つて先に行くと言つた

みんなから見えないところまで来てから全速力で走つた

賊はまだ遠いが到着したのでとりあえずあげてもらつた

とてつもない胸騒ぎがしたので急いで来たと言つた

しばらくしてドアがノックされた

アツカーマンさんがドアに近づくの制し

ドアに近づき、3人には隠れてもらった

グリシャさんですかと問いかけるが返事がないのでドアを勢いよく開け1人を吹き飛ばし後ろの2人も巻き込む

ドアを壊さないように周を使ったからかなりの威力だったはずだ

3人がもつれ合ってる間に接近し顎を揺らし意識を刈った、

縛り上げて目的を吐かせたところやはり奥さん狙いだった

：

日が暮れたころイエーガー親子がやって来たので事情を説明し憲兵を呼んでもらった

結局落ち着けたのは夜中だった

結局アツカーマン家の3人はアルレルト家の家で生活することになった

またアツカーマンさんには格闘技、奥さんには護身術を教えることになった、ミカサはエレンとアルミンと遊ぶのが仕事だ

ミカサが覚醒してないのが心配だ

：

半年くらい経った頃、ミカサから強くしてほしいと言われた、なんでもアルミンやエレンに守られてばかりは嫌なのだそうだ

そう、実は今やアルミンは原作よりも大きめで若干筋肉質になり俺のしごきでさらに強くなっておりもはや別人なのだ頭の良さも新たな議論で深まっている

またエレンは友達のアルミンが強いことに対抗心を持ったのか俺に教えを請い、原作より強くまた思慮深いエレンに仕上がっている

よって覚醒してないミカサは3人の中では一番弱いというところでもない状況なので正直ヒヤヒヤしてたんだ

徹底的にしごいて強くなってももらわないと、あわよくば覚醒してほしい

∴

鍛え始めてすこしたころアルミンエレンミカサの3人対俺という形式で稽古してるときにふざけて悪役の演技をして2人を気絶寸前に追い詰めて、尻込みするミカサに戦えって言って見たら覚醒しおった、片手で対処したけど

∴

845年、3人がすつかりやるようになったある日の昼ごろ

壁の外で巨人に変化させておいた分身の円の探知に女型の巨人に乗ったライナーとベルトルトが引つかかった

とりあえず今ままで一番とびつきりの嫌な予感がすると言ってハンネスさんたちにも注意しておく

流石に嫌な予感の時は今まで外したことがないとみんな知ってるので真剣な表情だ
そしてイエーガー家は今日奥さんだけなのはまずい気がすると言ってアルレルト家
にいてもらった

夕方頃とりあえずみんなには集まってもらってた

嫌な予感がどんどん大きくなっていると書いておき

動物たちがざわめき出した頃

「なんか来る！」といった次の瞬間壁が破壊された

第17話

壁が破壊された

こんなこともあろうかと用意しておいたナイフと長めの鉄パイプを装備しつつ
現実を飲み込めて来たみんなに指示を飛ばす

「エレンたち3人とおじさんはおさん2人とじいちゃんを護衛しつつ避難してくれ、俺
は怪我人の応急処置をしつつ避難する！」

みんながな何か言いたそうな顔をしたので安心させようと

普段の稽古では全力の5%も使っていないから大丈夫！

つて言ったらみんな苦笑いして避難していった

応急処置は本当だが、避難は嘘だ

瀕死の兵士から立体機動装置をもらうつもりだ

：

まだ助かりそうな患者にに処置をし

逃げ遅れた人を襲う巨人に鉄パイプとナイフでおうせんしながら移動すると

ちようどよく、いつもクソみたいな勤務態度のおっさんが瀕死の状態で倒れてる
こいつもしかして自滅したのか

あと数分で死ぬな

とりあえず開心術でこの人の家族友人の名前を把握
事切れたので装置をいただく

小柄な人でよかつたサイズがちようどいい

とりあえずこの人の遺体を抱え駐屯兵が多めにいる壁上に登り兵たちにこの人の最
後の言葉っぽいのを伝えて

俺の分までたすせてくれて言われたんだあとかなんとか言いながら飛び降りる

これで子供が熱くなってるって思ってもらえるだろう

その後、立体機動で飛び回り逃げ遅れた人を助けつつ

巨人を狩りまくった

すると後方で鎧の巨人がウォールマリアを粉碎した

兵士たちの士気が下がったので鼓舞することにした

「まだだあああ！まだ壁が全部壊されたわけじゃない！

まだみんな死んでない！まだ助けられる人がいる！

穴が空いたなら通さなきゃいいじゃんか！

心臓捧げてるんだろ！だったら戦えや腰抜け！」

とか調子に乗って叫びながら巨人を駆逐しまくった

：

ウォールマリアが陥落し、人類の活動領域はウォールローゼまで後退した

やっちまった、調子乗って前に出過ぎたら後ろガラ空きにしてライナーにやられた

避難があらかた完了するまで自分は兵士たちに加勢し続けたら戦闘終了後になんか同行を求められてついていたらピクシス司令の部屋に連れてこられたと思っただらお礼を言われた

これには結構驚いたが大物政治家の勘が言ってるこれはなんか裏があるな

するとピクシス司令が条件付きでだが望みを聞いてくれると行って来た

なので先手を打ってみた

「頼みを聞く条件というのは一般人の子供である自分の功績が駐屯兵团よりも大きいと組織としては問題があり、

報告書の多少の修正または自分は自分は駐屯兵团の指導を受けていたなどとやや駐屯兵团寄りの印象操作をしてもいいかといったところでしょうか？」

それを聞いた司令は驚きの表情を浮かべ、すぐに目を細め

そうだと肯定した

自分としては正直周りからの評価は興味ないので問題ない

その条件を飲む代わりにいくつか頼みごとをした

部屋を後にし解放されてからみんなの元へ向かった

：

それから数日後グリシャさんを除く三家のみんなはとある一軒家に集まっていた

第18話

三家族は大きめの一軒家で共に暮らすことになった

これは自分がピクシス司令に頼んだことが関係している

ピクシス司令には次のことを頼んだ

イエーガー、アルレルト、アツカーマンの三家族が暮らす一軒家の用意

これから起こるであろう食糧不足を解消する対策として考えられる開拓地送り、口減らしの免除

そして自分の調査兵団への入団である

ところでエレンたちは原作では104期訓練兵団入団までの2年間は開拓地で過ごしたとなっていたので

この2年間で訓練に費やせば3人はさらに強くなることができると特にエレンは巨人化した場合は無手での格闘術が肝になる

徹底的にしごかなきゃ

トレーニンングメニユーを渡した時3人の顔がこわばっていた

おかしいなエレン以外は少しなのに

∴

数日後、俺は調査兵団本部で挨拶をしていた

「はじめまして！カイル・アルレルトと申します！12歳、

普段は町医者やつてます。この度は先日巨人襲撃の際、

駐屯兵団に加勢したこと褒美としてピクシス司令無理を言って調査兵団入りさせてもらいました

巨人討伐数20 討伐補佐数10

目標はエルピン団長並みの頭脳、リヴァイ兵長のような強さを手に入れることです。よろしく願います」

挨拶を終えると歓迎ムードな人と敵対的な人に分かれた

まあ後者は実力で黙らせるとしよう

∴

初めての壁外調査で巨人を討伐しまくったり

リヴァイ兵長の動きを見てすぐに覚えたり

団長と同レベルかそれ以上で話していたら

いつのまにか認められていた

また医者としてのレベルの高さも認められた

それからは基本は週の半分は調査兵団でもう半分は

町医者としての仕事とエレンたちの強化と

忙しい日々をおくった

少しずつ周りの信用を得ていき

超人や天才などと呼ばれるようになった

ちよくちよくピクシス司令にお呼ばれして愚痴とか相談に乗ったりしたオセロが無
いようだったのでピクシス司令とどこかの商会で組んで売って見たらどうかと提案し
たら

すぐ採用されて大ヒットしたらしく、後日発案料つばいものももらい美味しい食事も
奢ってくれた

：

846年

ついに、エルヴィン団長、リヴァイ兵長、ハンジ分隊長に自分だけで話ができる状況

がやって来た、この人たちには伝えるべきだと判断した

「グリシャ・イエーガーに当時9歳の自分が教えてもらったことがあります。団長たちは、知る権利があり、話しても大丈夫だろうと自分が判断したので伝え、また自分の見解を述べます」

それから自分は次のように語った

グリシャイエーガーは壁の外から来た人間である、彼曰く

自分たちが現在生活する領域と壁外の巨人がいる領域は世界の一部であり周りを海に囲まれバラティ島と呼ばれる

我々の祖先は大陸というとても大きく大きな島から来た

外の世界の一般的な歴史は次のように説明できる

はるかむかしユミル・フリッツは大地の悪魔と契約し巨人の力を得た

その力でユミルは瞬く間に地を切り開き多くの人間を従えやがてエルディアと呼ばれる国の王となった

始祖ユミルの死後、巨人の力は9つに分かれ受け継がれた

エルディア帝国は巨人の力で強大化し、大国マーレも吸収した。その後長きにわたつてエルディア帝国による支配の搾取の時代が続いた

しかし今から1000年ほど前、145代フリッツ王が始祖の巨人を継承したことを

きっかけに巨人大戦と呼ばれる内乱が発生、これはマーレ人が起こしたことになっていく

フリッツ王は戦うことを恐れ、多くのエルディア人とともにバラティ島に移り住みその巨人の力で三つの壁を築き引きこもった、初代レイス王である

王は始祖の力で壁内人類の記憶を改竄、壁の外の記録も抹消した

その後マーレ人が属する勢力が7つの巨人の力を手に入れ勝利し、エルディア帝国からマーレ帝国になった

大陸に残ったエルディア人は悪魔の末裔と呼ばれ弾圧されている

ルールを破ったり反抗的なエルディア人は、バラティ島に連行され無垢の巨人として島に放たれる

無垢の巨人について話したとき、3人が今までで一番の反応を示した

まあ衝撃だよな、自分が今まで殺してたのが人間だったって知ったら

でもこれからもつとヤバいこと言うけど大丈夫かな？

第19話

「ここからは、自分の見解を述べます」

原作知識がほとんどなんだけれども

歴史とは綴る者の主観に大きく左右されるもの

エルディア崩壊はマーレによるものとされているが

実際は大半が大陸に残ったエルディア人の勢力によるものであると思われるということ

そして今のマーレ帝国は名前が変わって弾圧されるのがエルディア人になったところ以外は変わっていない

壁内人類でさえ立体機動装置という巨人への対抗手段を生み出したのに大陸の他の国や、もしかすると存在するかもしれない第二第三の大陸の人類が巨人の力以上の武力を手にした時が、

マーレとバラティ島の滅亡へのカウントダウンの始まりであろう

2人の顔がすごいことになってる、

「ここまでは壁が破壊されるまでの見解です、

この時点では自分には個人の力しかなくこの事実を言ったところで信じてもらえない上に、中央からほぼ確実に命を狙われると思いき秘匿して来ました

しかし事態が急転したため無理を言って調査兵团に入れて貰い、話を伝えられる機会を伺いつつ、調査兵团内部に潜入しているかもしれない超大型と鎧の継承者を探していました」

兵团内部に敵がいるかもしれないと聞き驚きの表情を浮かべる2人と、やはりかという顔の団長

さすがだおそらく超大型と鎧を狙いましたように門を破壊したところから予想はしていたのだろう

「そして、何より自分が急いでこの話をしなければならなかったのかはグリシャ・イエーガーの息子で、自分の弟分であるエレン・イエーガーが何かしら巨人の力を継承した可能性が高いからです。」

そう言った途端ハンジさんの目が輝きだした

「そもそも壁の外からただの人間が、壁内もしくは壁付近まで近づくことは不可能でしょう（あれ？俺できる）、だから何かしらの巨人の力、それもマーレ側の7つでも始祖でもない残りのひとつでしょう。」

3人とも頷いてる、壁の外での活動をしてる3人からしたらただの人間ができること

ではないと感覚的にわかるのだろう。(あれ?おれでできる)

「自分は壁の破壊前から今までグリシヤさんに会っていませんし、エレンもあつていないはずですが、壁の破壊前にグリシヤさんが所持していた地下室の鍵を、この前エレンが所持していました。」

それについて質問すると本人もわかってないようで夢で父にもらった気がするや、無意識かなどと呟き思い出そうとすると記憶にモヤがかかると言っておりました。

これを力の継承の影響だとすれば納得がいきます」

我ながらそれっぽい説明だ

「あともう一つ、気づいてらっしゃるかもしれませんが

マーレが7人の継承者のうち最低でも2人さらに1人2人は投入して来たということとは、マーレ内での内乱かまたは他国の武力強化に伴う戦力増強に必要なが出てきたかのどちらかであり、いずれにしろ目的は始祖の力でしよう

まあレイス家が真の王族であることはグリシヤさん曰くマーレには知り得ない情報らしいので問題ありませんが」

おお、納得してくれたようだ

それっぽい理由を考えるのに苦労したんだ

納得してくれなきや困る

さあこれからについて話し合わないと

何度も転生して軽く四桁も生きてるからってまた油断して

エレンの寿命を削られたんだ

気を引き締めないと

第20話

あれから一年経った847年

エレン達が第104期訓練兵となった

今は恒例の歓迎行事が、キース教官により行われている

俺はどこかって？そうちゃっかり自分は臨時教官なる役職についている

これにはちゃんと深いわけがあるのだ

あ、終わったっぽい、呼ばれた

「こっちは、知っているものも多いと思うが当時12歳にしてシガンシナの英雄と呼ばれた男だ」

するとザワザワとざわめきだした

なんか実際精神年齢4桁だから申し訳なさを感じるな

「ええ、カイル・アルレルト、15歳だ。」

普段は調査兵団に所属しているが、今は臨時教官という立場だ。担当は対人格闘訓練、また他の授業では他の教官の補佐をする。故に君たちの手本を示すことになる。実力はそのきにわかってもらえるだろう。3年間よろしく」

：
訓練兵 s i d e

今日の訓練は体力作りのための走り込みだ
早速カイル教官も一緒に走るようだ

やっぱりかなり体力あるんだろうか？

ああ、もう先頭集団においてかれ始めた

あれ？疲れて幻覚が見えたのかな？

先頭の人バツク走してないか？

ん？止まった、と思ったら逆走し始めた!?

最後尾の人の前まで行ったみたいだ

「おい！しっかりしろまだ出し切つてないだろ？しっかり腕振ってフォームを意識するんだ!!」

よし、そうだいいぞ頑張れ！」

指導は普通だ！

教官が汗ひとつかいてないところ以外は

：

全くあの教官人間か?!

アホみたいな体力だ、前回は結局最後までバック走で走ってたぞ。まあ今日は座学だから、脳筋っぽい教官は苦手だろう

頭も良かった!!担当教官よりもわかりやすいし、しかも医者でもあるとか想像できないわ!

ただ、巨人の弱点の授業の時に言ってた

「たしかに殺すにはうなじの肉を削ぐしかないが

動きを止めるだけなら隙だらけぞ、

壁外調査の時調子乗ってたら周りに巨人がうじゃうじゃいる時にガスきれちゃつてさ、先輩来るまでひたすら地上で巨人の脚の腱や足の指を切りまくってたら以外と大丈夫だったぞ」

ってというのは流石に嘘だよな?

そうであつてくれないとあの人が同じ人間とか信じられないよ

：

ついにカイル教官の対人格闘の訓練の日になった

だんだんみんなあの先生の異常さに慣れて来てる

今日はどのくらいびつくりするんだろう？

訓練の時間になると教官が現れたみんなの真ん中に立って足で半径一メートルくらいの円を描き始めた、すると

「とりあえず全員でかかってこい、俺はこの円から出ないし攻撃を受け流すだけだからみんなポカーンとしたあと

「大丈夫手加減してあげるから」

と挑発をされて始めにライナーが突っ込んでいった

ライナーの拳が指一本で受け流され片手で優しく吹き飛ばされた

それを見てみんなが続々と挑んでいくが誰も教官を動かすことができない、しばらくして誰も挑まなくなると

教官の弟のアルミンとエレン、ミカサが出てきてものすごいコンビネーションで教官を攻め立てていく

なんだこの人たち？同じ人間か？

なんか先生の腕が速すぎて何本にも見える

先生が両腕使ってるあたり3人は強いんだろう

結局3人が動かなくなるまで捌ききった教官はみんなに向かって言った

「くんれんしだいでこんなこともできるようになるぞ？」

「「「んなわけあるか!!」」」

みんなの気持ちが入団以来初めて揃った気がする

side end

∴

いやゝ凄腕教官プレイが楽しくてつい調子に乗ってしまった。しっかりと任務を果たさないとな

第21話

一年前4人で壁の外の世界に関する話し合いをした結果
鎧と超大型の継承者またその仲間の特定と兵団の強化、真王家側でないものの選別、
に取り組むことになった

それからは色々あった。一番大きなことといえばピクシス司令を味方に引き込めた
ことだ

ちよくちよく駐屯兵団との合同訓練を行い練度を高めた

そして今年

自分には任務が課せられた、訓練兵の強化を建前に鎧たちの搜索、特定、またエレン
の護衛だ

一見難易度の高そうな任務だが、よく考えてみれば俺は
搜索、特定はすでにクリアしたものだし

彼らはエレンがトロスト区で巨人化するまで気づかなかったから大丈夫だろう

エレンを鍛えまくったしな、常に冷静にとは口酸っぱく言って不意の巨人化も抑制できている。

万事うまくいっている

気が緩んでいたのか、ちよつと訓練で羽目を外しすぎたみたいだ

：

今日は立体機動の適正の調査だ

確か原作ではエレンの装置に細工されてうまくいかないはずだから助けてやらないと

アルミンは幼少から鍛えてたからか明らかに原作よりもセンスがよさげに見えるあれ？エレンふつうにできてますやん？

細工はされていたんだろうかと思いきや教官の顔を伺うと顎が外れそうなほどあんぐりしていた、細工はしてあるのね

やっぱりビシバシ鍛えたのが良かったかな

今や鍛えた3人の格闘能力はアニですら相手にならないからなあ！まあ備えあれば憂いなしって言うし、よしとするか

これからみんなももつと鍛えてやるか！
教官としての時間が過ぎるのはとても早く感じた

：

一年半ぶりに調査兵团本部に来た

取り敢えずエルヴィン団長に報告をしましょう

「ほぼ確実に鎧と超大型巨人またその仲間である者たちを見つけました。順にライナー・ブラウン、ベルトルト・フーバー、アニレオン・ハートです」

団長は目を軽く見開いた後、やや笑顔で根拠を聞いて来た

答えはもう考えてある

「まず鎧の巨人と思われるライナー・ブラウンですが骨格が鎧の巨人にそっくりでヘアースタイルも同じ

さらに、ストレスからか精神が二分しているように感じました。

次の超大型巨人と思われるベルトルト・フーバーは、超大型巨人と頭蓋骨の形が完全に一致しています

最後にアニレオン・ハートです。彼女は周りとの距離を取りがちなのですが、先の2人とは何度か密会しております

3人共通の理由としては訓練慣れというものを感じたというところでしょうか、おそらくマールで何かしら訓練を受けていたのでしょう。

まあ、3人が密会中に、巨人の力に関する会話をしておりますのでまず間違い無いかと」

これには団長も苦笑いか

だが盗み聞きできたのは偶然だが、必然でもある

実は調査兵団と駐屯兵団、さらに訓練兵団の兵舎は

846年から改装されている

改装費は、自分と司令、ある商会で組んで売った様々な娯楽品の売り上げである

生前、平和な世界で何の苦勞もせず育った身としては

若者にももう少し楽しさせてやりたいと思ったのと

忍者屋敷みたいにしたかったという自分の趣味だ

隠し部屋には訓練兵に嬉しい肉や娯楽品が隠されている

肉は今のところすべてサシヤが見つけた

3人の会話が聞こえたのは隠し通路を通っている時だった

というわけで3人を巨人化できないところに誘導して捕獲、説得を試みることになっ

た

：

課外訓練ということ、一人一人が俺を追跡、確保するという鬼畜な訓練をはじめた

あれ？みんな最初から死んだ目をしている

よし、やる気を引き出して見せるか

「よしハンデをやろう俺が指名した三人対俺一人、それだと簡単だからな目隠ししてやる！」

するとみんなの目に生気が戻った

「まずはアルミン、エレン、ミカサの3人だ、3人には手加減しないからな、つぎは、」

：

「次、ライナー、ベルトルト、アニの組、こい！」

アニやる気なさそうだな、

∴

彼らを一人一人引き離し落し穴に落とすことに成功した

なんかあまりにもあっけないなあ？

やつぱり俺を追いかけるのに体力をほとんど使わせたのが良かったのかな？

もう少し警戒してると思っただけだな

とりあえず、他の訓練兵を兵舎に返す

ここら一帯は調査兵団と訓練兵団の合同訓練という名目で警戒中

∴

ライナーさえ味方に引き込めば、決断力のないベルトルト

と半ば嫌になつてるアニの説得は容易いだろう

穴に自分も降りて

「よ、ライナー大丈夫か？大丈夫だよな？だって怪我しても自分で治せるもんな？」

彼は俯いている

「俺をはじめ、ほかにも何人かお前たちの正体を知っている」

少し反応した

「それに目的も、そうせざるを得なかった事情も」

初めて顔を上げお前に何がわかると言いたげな顔をする

「ここで目を合わせながら別天津神を発動する

「本当に悪いのはお前じゃない、周りの大人が、国が、世界が、お前たちに無理やり、壁を壊してたくさんの人を殺させたんだ。自分たちの手を汚さずに。それに、マーレのためにお前が頑張って何になる？ 任務を成功させて帰ったってマーレ人の言いなりなのは変わらないんだぞ。収容区のエルディア人の家畜のような扱いも変わらない」

ライナーは絶望している

「だから彼らを救うために俺らは動いている、それもマーレにとびつきりの仕返しができる作戦を考えている」

ライナーは元気を取り戻した

「だからもうライナーたちは休んでくれ

もう十分頑張ったじゃないか、お疲れ様」

ライナーはしばらくの間静かに泣いていた

第22話

3人を味方に引き込むことにことに成功した
とうかさせた

人の精神を操作するのはあまり褒められたことではないので、マーレに対する悪感情を強めるだけにとどめた

とりあえず3人は訓練中の怪我ということ

しばらく休養を取ってもらうことにした

∴

今は、団長たち3人と司令に3人を味方につけたと報告したところだ

「よくやってくれた。これで計画を進めやすくなる」

「うむ、あの時も優秀だと思つたがまさかここまでとは」

べた褒めされて、ちよつと罪悪感を感じる

まさか全部知つてて、精神操作までしたなんて

言えない言えない

「加えてご報告したいことがあります」

4人に、新たな情報を話した

三年前の襲撃は威力偵察で、マーレはバラティ島の資源と始祖の力を狙っている力の継承は継承者が巨人となり前任者を捕食すること

また、彼らは当初4人で任務に派遣されたが、

たどり着くまでに1人食われており

顎の巨人の力を持つものが壁内にある可能性が高い

ほとんどは予想していたことだが1人イレギュラーがいることに難しい顔をしてい
る。まあ普通見つけられないよな

ここは少々強引に行くか

「実は顎の巨人の力を持つと思われるものに心当たりがございます。3人を見つけるまでに、巨人の力を知るかどうかで冗談とも取れる質問を訓練兵にした際、明らかに反応を示しており、さらにその人物にはエレンやライナーたち力を持つものと似た気配を感じました」

これにはみんな驚いてるようだ

客観的に見て、俺優秀すぎ、気配とかどんだけだよ

リヴァイ兵長まで俺をこいつマジかって目で見てるよ

いや兵長、あなたも似たようなもんですよ

「その人物も訓練期間を終えるまでに味方に引き込んで見せます」

苦笑いしながらすぐ許可が下りた

時間がないからな、こういう時は手段を選ばずだ

：

ゆみるはなかまになった

：

訓練期間は終わりを迎えた

現在全訓練兵、調査兵団、駐屯兵団、中央憲兵でこちら側のものが一堂に会している
アルミンがトップテン入りしてたりエレンとジャンの悪くなかったりしたが大
したことはなかった

重要なのはここからだ

エルヴィン団長が壇上に立った

「訓練兵の諸君、ならびに各兵団の兵士たち、これから伝えることは、調査兵団が多くの命を犠牲に手にした情報である。それはこの世界の真実だ」

時は少し遡る

：

ユミルを仲間にした少し後

団長に呼び出されたので応じると、おどろくべきことに

ちやつかりウオール教の司祭から、クリスタが真の王族であること、レイス家の居場所などを吐かせたというのだ

そしてレイス家捕縛作戦に参加してほしいとのことだった

もちろん了承した

：

捕縛作戦は、地下で行うつもりでいたら

ケニーアツカーマンと戦闘になったのだ

まあ苦戦はしなかった

リヴァイ兵長とケニーの一騎打ちも見たかったが、有能な人材を流すのは惜しいと思っただので、

彼がリヴァイ兵長に注目している間に、絶で気配をたちながら、水晶でできた柱を使い、壁蹴りジャンプの要領で空中を移動し、恐ろしく速い手刀で気絶させた

兵長にまたまじかこいつって顔されたその後

レイス家のおっさんを別天津神を使いつつ拷問し、始祖の巨人がエレンに継承されていることを確認した

：

始祖、超大型、鎧、顎、女型、進撃の巨人の力の継承者が全て揃った。

そこから団長とピクシス司令の動きは早かった

あつという間に偽の王家を引き摺り下ろし

ザックレー総統を味方につけ

中央憲兵と権力者を黙らせた

：

真実を聞いた訓練兵はざわついている

「外の世界の人間の多くは我々を悪魔であり滅ぼすべき存在と認識している、言うなれば敵は世界である！」

「故に壁内人類及び、マーレの収容区にいるエルディア人が生き残るためには、少しでも力をつけ抗うことである、

そのためには皆の力を合わせなければならない！」

∴

その後、このことは中央からの圧力がなくなった新聞社によって広められた

クリスタはヒストリアとして女王になった、ユミルはその護衛だ

エレンに巨人の力について話し、ライナーたちに力の使い方のレクチャーをさせたりした

その時のハンジさんはすごかった

∴

力の制御を学んだエレンを連れて

ウォールマリア奪還作戦が行われた

途中獣の巨人が現れて戦闘になり兵長と2人でズタズタのけちよんけちよんにしてから別天津神を使いつつ説得したことにした

なんかすごいビビってた

円で車力も探して同様のことをした

色々あったがウォールマリアはエレンの硬質化で塞がれ奪還に成功した

第23話

ウオールマリア奪還から一年が経つ頃には巨人はあらかた駆逐された

ザツクレー総統、エルヴィン団長、ピクシス司令らと話し合い、大陸側に潜入しエルディア復権派を味方につけること、収容区のエルディア人の護送手段の確保、先進技術の輸入、国力の増加

マーレと敵対関係にある国との渡りをつけるなどの目標を立てた

そして自分は潜入の一番手となることになった

反対されるかと思つて提案して見たら、あっさり承諾された。普通に、君なら簡単だよね？みたいな反応された時はなんとも言えない気持ちになった

：

さらつと潜入。

あるどうやって海を渡ったかつて？

サメに変化して泳いで渡りました。

とりあえず軍上層部に別天神したり

エルディア人収容区の精神を病んでそうな人たちに

別天神で心を落ち着かせて強制カウンセリング？したりしながら後続の潜入班を待った。

暇だったので最新の研究所に忍び込んで研究資料を強奪して間違つてるところを赤で修正したり

他国とつながりの深い新聞社を味方につけて、取材を受けるといふ形で

バラティ島のこれまでの100年、五年前の襲撃の恐怖

生まれがエルディア人というだけで世界の敵という理不尽

マーレの命令で壁を壊し沢山の壁内人類を殺した少年が

壁内の自分と変わらない少年少女たちと共に生活するうちに罪悪感から心を病んでいく話、などなどマーレにヘイトが集まるような話をたくさんした

：

潜入班が到着した頃には目標はあらかた達成していたので

軍事機密や他の技術資料を渡して、収容区の人々の受け入れ態勢を整えるよう伝言を頼んだ、技術者っぽい人たちに何人か付いて行ってもらうことにした

自分は巨人の研究施設に潜り込みエレンたちからユミルの呪いという13年の縛りから解放するための研究に取り組んだ

：

2年後、全ての準備が整った

まあ研究自体は精神と時の部屋で時間を弄つてすぐにできたのだが

バラティ島の武力強化に時間がかかった

計画を実行する時が来た

まず軍の新型飛行船の搭乗人数の限界数を調べるために

万が一に備えエルディア人を使うという名目で収容区の人々を全員乗せ

バラティ島へ飛ぶ、荷物も持つてくるように言つてあるから戻る必要はない

同時に世界中のマスメディアに例の新聞社とほぼ同様の情報を流す

唯一違うところは「バラティ島にエルディア人がヒストリア永世中立国を建国する」と宣言しているところだ

他国の戦争には不介入、貿易を求めてくるものは大歓迎であるとも載せてある

また現在マーレには巨人の力を持つものは、何もせず得た地位でぬくぬくと生活して

きたダイバー家のみであること、亡命も歓迎していると

はじめは本気にしなかった他国の人々も

マーレから巨人の力がほぼなくなつたと知るとすぐに開戦
あつという間にマーレは崩壊した

：

あれから数年すつかりバラティ島は平和となり

生活も豊かになつた氷瀑石という地下資源を輸出することで経済も安定している、自分がちよくちよく技術革新を起こすので技術力も世界一だ

世界中の迫害を受けた人たちや移民も受け入れているので人口も増加中だ

今は巨人の力を継承者たちから抜き取ることに成功したところだ

「これで君達はこれからも生きていける。もう人殺しをしなくていいんだ。これからは1人の男や女として人生を楽しんでほしい」

そういうとほとんどの人は泣き出した

なんかエレンは「これで修行が出来る」とか「俺は合気柔術を極めるんだ」とかブツブツ言つてたので放つておいた

誰だエレンをあんな風にしたやつは？

アニに抱きつかれた時はびっくりした

それから性格もすごい女の子っぽくなって猛アタックを受けることになった

：

あれから80年、アニが寿命を迎えようとしている

結局ハーマイオニーに相談したら真剣に考えてと言われ

しばらくして、自分が転生者でもう1,000年は軽く生きている存在だがそれでもいいかと聞くと、それでもと言われたので付き合うことになった

アニが25歳の時に結婚した、子供も3人産んですでに独り立ちした
もうこの世界に未練はないので

自分とアニの身代わりを残しプライベートエリアに籠ることにした

とりあえず若返り薬を飲んで貰い

自分が転生するのを待ってもらう

今回も精神と時の部屋で修行に専念するか

：

今回はひたすら料理の修行をした

いつも2人に任せきりは良くないからな

あとせっかくだからブレードがハンドガンになったり馬力がアップした新型立体機
動装置の操作も極めた

次の世界はなんだろう

僕のヒーローアカデミア編

第24話

転生しようだ

現在の状況は子供部屋と思われる場所に自分一人

年齢は3歳程度、時計とカレンダーを見る限り今日は誕生日のようだ

ん？なにやら今までにないタイプの力を感じる

ステータスを確認すると1つ項目が増えている

1

個性

結界

様々な結界を張ることができる

ただし特殊なものや強固なものほど集中力、精神力、体力を消耗する

1

なるほど、ここはヒロアカの世界のようだ

どうやら自分はなかなかの強個性を持っているようだ

今までの経験から言っておそらく幼稚園に主要キャラがいるのであろう
とりあえずプライベートエリアに入りハーマイオニーとアニに愛でられた後、精神と
時の部屋で影分身を使いつつ基礎トレと個性の訓練をしておこう

∴

幼稚園に入園した

やはり原作キャラと同じところであつた

主人公緑谷少年と二次小説においてかなりの人気を誇る爆豪少年である

となれば彼らと行動を共にしつつ彼らの関係悪化を防ぐとしよう

将来3人チームを組めば最強である

∴

爆豪少年が爆破の個性に目覚めたようだ

ここで増長させてはならない

「かつちゃん、攻撃力の高い個性だね」

「おう！おれがいつちゃんすげえ！」

「個性つてさ、使えば使うほど強化されるんだってお父さんが言ってたんだ。だからさ、

かつちゃんの爆破で僕の結界を攻撃して、僕はそれにひたすら耐えてれば
もつとすごくなれると思うんだ！」

「いいぞ！おれはおーるまいとをこえるヒーローになるんだ！いくぞまもる」
どかんどかンドカンドカン…

それからしばらくは完全に防ぎつつだんだん苦しくなつて来た演技をして、かつちや
んの限界がきたところでギブアップしとく

「かつちゃん個性出たばっかりなのにすごい持久力だね」

こうして褒めつつ、結局破れなかったという敗北感を与えることで増長しすぎないよ
うにしとく

「おれはすげえからな、こんどはすぐに破つてやるさ！」

幼稚園児はみんなかわいいな

それからは、追いつき追いつかれを繰り返すように調節し
友とかいてライバルと読む関係を維持した

：

そんな中で、緑谷少年の無個性が発覚した

そこであつちやんに

「こういうときに笑顔で救つちやうのがオールマイトみたいなヒーローだね」
するとかつちゃんは

「デク！個性がないからヒーローになれないっていう決まりわないんだぞ！」
かつちゃんまじで幼稚園児か？もう法律を意識し始めてる

とりあえず乗つかつて

「オールマイトのサイドキックのサーは予知の個性で戦闘には向かなくてもヒーローとして活躍してるよ」

少年は泣きそうな顔で聞いている

よし、ずっと考えてたことを言おう

「かつちゃんがオールマイトを超えるヒーローになるなら

デクは無個性初のトップヒーローになればいいよ

僕が2人の後ろを守るからさ」

これが、後の最強のヒーロー事務所が結成されるきっかけとなるとは自分以外の思わなかつただらう

第25話

それからは最強のヒーロー事務所設立に向けて

密かに2人の魔改造を始めた

∴

なんと小学校に上がる前にかつちゃんは爆破で空を飛べるようになった

デクは自分が作った様々な結界を使ったパルクールを習得した

∴

小学校を卒業する頃には

かつちゃんはおそらく原作入学時くらいに戦闘力を身につけた

デクは自分が教えた合気柔術で個性なしならかつちゃんを取り押さえられるくらいになった

∴

中三の受験期

誰も落ちる気がしなかった

デクは原作とは違う流れだと思うがワンフオーオールを継承したようだ、合気柔術の稽古で力の流れを感じ取る能力が飛躍的に上がっているためか原作ほど苦労はしてないようだ

俺たち2人には体が個性に耐えられるまで発動できなかつただけで個性はあつたらしいと話してくれた

高い機動力と火力を兼ね備えたかつちゃん

応用が効く肉体強化のデク

牽制、盾、捕縛とサポート向きなオレ

強くね？

：

入試当日

3人で会場に向かった

デクは原作よりも高いかつちゃんくらいの身長で結構ガツチリしてるからかもともとヴィラン顔のかつちゃんと一緒に目立っている

：

筆記の後は、プレゼントマイクによる説明だ
デクがブツブツうるさかったので口を塞いどく

会場は分かれていたようなので、

かつちゃんか

「誰が首席合格するか勝負だ！護は手加減すんなよ」

と言って別れた

実は中学生の頃にかつちゃんとデクに前世の記憶があることはバラしたのだ、なんか自分の格闘技のレベルが尋常じゃないのが薄々バレて来てたので

前世は違う世界の合気柔術の道場を開いて死ぬまで研鑽した、と言ったら納得してく
れた

：

実技試験は原作と同じだ、

マイクの突然のスタートの声と同時に足元から斜め45°に勢いよく細長い円柱状の結界を張り試験場はるか上空に数秒で到達、試験場を俯瞰しロボットが意図的に集め

られているであろう場所に向かう

見たところ外見より脆い作りになっているので

結界を細長く槍のように張り串刺しにする

また高所から俯瞰

ということを繰り返し80ポイントくらい獲得したので

周りを見渡しピンチな受験生のサポートに回った

試験終了2分前になり超大型ロボが出現した

みんなが逃げ惑う中とりあえず瓦礫とかで怪我しそうな人の援護をしながら逃げ遅れた人を探す

どうやらみんな無事に距離を取ったようなので

壊そうと思ったがふと面白いことを思いついた

「しゅ、終了〜!」

∴

試験の帰り道、2人と話した結果問題ないようだった

∴

side 雄英高校教師陣

「実技試験結果出ました！」

「トップスリーは圧倒的ね」

「3人とも体の動かし方が似てるな」

「これは合気道や柔道の動きに通じるものがある」

「こいつらテクニシャンだな！ つつても1位のテクニクはヤベエけどな！」

「他の2人でさえ破壊することで動きを止めたつてのに

必要最低限の大きさの結界をロボットの動きの起点に張って動きを完全に封じるとは、恐ろしいほどの判断力と精密な個性操作がないと不可能だ」

「まあなんにしても今年は豊作でよかったネ」

∴

しばらくして合格通知が届いた

まるで機械のスイッチを入れると

「わーたーしーが投影された！なんで私がって？

来年度から雄英の教師になったからなんだ！

ん？時間？巻いて？

ああ、すまんすまんでは早速結果発表

風間少年、敵 p t 8 4！これだけでも十分合格点だが

本試験はそれだけにあらず！

救助 p t 8 0 ポイント

総合 1 6 4 P t！見事 1 位

風間少年君が入学してくるのを心待ちにしているよ！」

2人から連絡が来たので聞いたところ

かつちゃんか2位 デクが3位らしい

第26話

今日から高校生活が始まる

今は三人で登校しているところだ

教室に着いた、おそらく担任のあの人だろう寝袋がある

2人は無視することにしたようだ

教室に全員集まり、グラウンドに向かうことになった

：

個性把握テストが始まった

俺たち3人はこれまでに自分の個性や力の使い方をひたすら研鑽して来たため普通に好成績だ

一位はデクだった、いやもはやDEKUだな

ワンフオーオールを使いこなすとあんなに強いとは

自分は基本的に身体能力は天才レベルまでしか出さなから流石に個性の相性的に

厳しい種目もあった

長座体前屈とか

：

それからしばらくは、普通の高校生のような生活を送った

：

今日はヒーロー基礎学の日だ

戦闘訓練のチームが決まった

自分は葉隠さんとだ

凝をすると色々見えてしまったので

普段は控えることにする

：

親友2人の戦いはとてもレベルの高いものだったが、

DEKUが少し無理したのか動きが鈍って来たところ

で爆破と見せかけ相手の動きを止めたかつちゃん

が確保テープを巻き敵チームの勝利かと思ったが

うららかさんが飯田くんに偶然触れたらしく宙に浮かせている間に、核を確保したことでヒーラーチームの勝利となった

：

自分の相手は轟君と障子君チームだ

葉隠さんと話し合い自分が囷で、彼女が不意打ちという役割分担をした開幕パンチで大氷結をしてきたが、

自分は核と自分の周りを何重にも張った結界で覆っているので問題ない

葉隠さんは部屋の入り口の真上に張った結界の上で待機してもらっていたので大丈夫だったようだ

轟少年が入口に来た

「すごい火力だね、でも、それだけだ」

とか言って注意を引いてるうちに葉隠さんの不意打ちで確保

その後きた障子君は結界に閉じ込め動きを封じ

タイムアップ

講評も特に注意は受けなかった

：

反省会ではクラスメイトにアドバイスを求められたので

切島くんには格闘指南、雷少年には人間スタンガン戦法などを教えてみた

：

救助訓練の日になった、

先生2人がオールマイトが遅刻すると話しているのが聞こえた

ふと思ったんだが、彼は現在教員なのだから仕事を優先するべきだと思ったのだがどうなんだろう

正直、活動限界が短くなっているのなら

オールマイトじゃなきゃできない仕事に絞るべきだと思う

そんなことを考えてるうちに宇宙服先生の話が終わった

敵連合のお出ました

相澤先生が戦闘に入った

モヤモヤ君のお出ました

「いんにちぶあへらっ」

ドゴン!!

モヤが話しかけた時には戦闘態勢に入っていた俺たち3人のうち、先制攻撃に向いて

いるDEKUが高速で接近し体重を乗せた掌底でモヤモヤ男を撃破
モヤの拘束をみんなに頼んで先生の加勢に向かう

とりあえずかつちゃんに派手な攻撃で雑魚狩りをしてもらうことで主犯格の注意から逃れ、脳無の相手をDEKUに任せ、自分は手首男を担当することに

手首男が脳無に指示を出そうとしたところで結界で隔離
そのうちにDEKUが脳無を投げ飛ばして距離をとった

結界に相手が手で触れたのを確認した後

手首男の手首を結界で固定各指を結界で覆い個性を封じた

DEKUの方は苦戦していたようだが途中からオールマイトが加勢したらしく、脳無が吹き飛ばされ星になった

これにて一件落着かと思っただが急に主犯格2人が泥のようなものに飲み込まれ姿を消した

：

少し話をするためにオールマイトを呼び出した

「オールマイト先生、先生は今日なんで授業に遅れたんですか？」
するとバツの悪そうな顔で

「通勤中に事件が発生してねそれに対処していたら

遅れてしまったんだ、すまない」

「先生は今日みたいな襲撃事件が起きた時にいなかったから悪いと思ってるようですね、みんなはオールマイトの人柄とこれまでの行いから強く言わないみたいですから言わせて貰いますね」

「襲撃事件云々がなくても、生徒が時間を守って行動してるのに、先生が遅刻するのはな

いと思いますよ
それに出勤時の事件だって何もN.O. 1ヒーローのあなたが対処せずとも解決できる事件はありましたよね？先生方が話していたことから推測するに活動限界というものがあるんですよ？それなのに、見境なく事件に首突っ込んでたら

ダメなのは子供でもわかることだと思っただけですか？

それに今日の時間も犯人はあなたが目的だったようです

正直言っ自分たち3人がいなければ大惨事でしたよ

途中から来たみたいですけど、活動限界の中無理したようですね、また動ける時間が減ったんじゃないですか？

正直あなたのことは、人として、ヒーローとしてはとても尊敬できる方だと思っ
ています、教師としては信用できません」

もうオールマイトのHPは0のようだ

「まあ活動限界は教師に関係なく、これまでの平和の象徴としての激務が原因ですから、その恩恵に預かっている1人の人間として治療しようと思います」

「風間少年!?!直せるのかい?」

「ええ、可能です。ですがこの能力が使えるのは一度だけです。次はないことをしつかり理解した上で、教職優先を忘れないこと、また自分が直したことを周囲に漏らさないことが条件です」

「わかった」

俺はアイテムボックスから大天使の息吹を取り出し使う

オールマイトの怪我は跡形も無くなった

平和の象徴としてこれまで働き過ぎなくらい働いたんだから、これくらいはしても問題ないだろう

第27話

U S J襲撃事件から数日、相澤先生から体育祭の説明が行われた。

A組のみんなはプロヒーローへのアピール場であるとともに学校行事でもあるため興奮しているようだ。精神年齢4桁の自分にはない初々しさがあつて良いな。

――

それから各自で特訓をしたりなどしてあつという間に体育祭当日となった。

自分は入試主席なので選手宣誓を任された。

壇上が上がつてみると、自信に満ちているもの、注目を集めているA組を敵視しているもの、すでに諦めているもの、様々だ。

「宣誓、自分が優勝する。」

自分はこのままでしか読んでないからこの先は分からないが、せつかくだからかつちゃんのリフをいただいた。

他の髪の毛の生徒、特にB組の生徒のヘイトを稼いでしまったようだ。

「自分が入試で一番だった、また先日の襲撃事件においても幼馴染2人と共に戦闘をしたが、そこそこの敵は相手にならない程度の実力があり、現時点で1年の中ではトップクラスだと自負している。だが、自分はクラスメイトすら実力の全てを知っていると言うわけではない、他クラスなど全く知らない、またヒーロー科以外の生徒の中には入試において相性の悪い個性だったものもあるかもしれない、よってこの体育祭で自分こそが雄英高校一年のトップだと証明する。全員全力でかかってこい！」

いい感じに盛り上がってくれてよかった。

—————

第1種目は障害物走

スタート地点でヒーロー科が飛び出した

自分は結界を空中に展開し、かつちやんとデクと一位争いをした。

ゴール直前2人の前に見えない結界を展開して一位でゴールした。

ちよつとブーイングされたが真剣勝負なんだから仕方ない。

――

第2種目は騎馬戦

2人とかもうと思つたら、ゴール直前のことで怒つたのか2人で結託して勝負を挑まれてしまった。

なので、名前から精神操作系の個性だと思われる普通科の少年と機械系の話の合うサポート科の女の子と組むことにした。

試験開始とともに周囲に幾重にも結界を張り、試合終了直前に結界を解除し、心操君の洗脳で動きを止め、発目さんのアイテムでハチマキを取り、余裕の一位通過をした。

――

第三种目は個人戦のガチンコファイト

とりあえず決勝まで来た。視認可能な結界と、見えない結界を巧みに使い全員場外に

叩き出した。

対戦相手はかっちゃんみたいだ。準決ではデクが空中移動をできないとかを攻め場外に弾き出したようだ。

そして決勝、さりげなくかっちゃんの動きを結界をたくさん張ることで制限し、かっちゃんの渾身の一撃のタイミングでギアを一段上げて急接近し、無防備なところを一撃で意識を刈り取った。

まだまだ若いな、かっちゃん。